

立憲民主党

The Constitutional Democratic Party of Japan

あべともこニュース

水害とコロナの複合災害に、今すぐの支援と中長期的な取組を

◆九州各地で線状降水帯被害

球磨川（熊本県）、筑後川（大分県、福岡県）など各地で氾濫と堤防決壊被害が続出。熊本では、合流地点近くに立地された特別養護老人ホーム千寿園が浸水被害に遭いました。浸水想定地域内であり、かつ土砂災害警戒区域に指定されていました。建設段階で不適地とすべきです。温暖化による異常気象は常態化し、記録を書き換える降雨量です。ダムや堤防だけでは、安全は守られません。

リスクを知らせ、川の中だけでなく、人が暮らす流域の土地利用や建物づくり、避難体制などに工夫をこらす「流域治水」への転換が急務。

7月22日14時から参議院議員会館で「流域治水の最前線シンポジウムー温暖化時代の水害政策を求めて」を開きます。流域治水条例を滋賀県知事として制定した嘉田由紀子参議院議員らと呼びかけています。



衆議院議員あべともこプロフィール

神奈川県 12 区（藤沢市・寒川町）
当選 7 回、東京大学医学部卒業、
小児科医、あべともこどもクリニック（湘南台）理事長
現在、厚労委員会・原子力問題調査特別委員会筆頭理事



https://twitter.com/abe_tomoko



<https://www.facebook.com/abetomoko.jp>

あべともこ 検索

あべともこと共に歩む会後援会
入会のご案内及びボランティア
スタッフ募集中！



◆第二波の検査と受入れ体制を急げ

東京都の感染者数は連日1000人超え。7月7日時点で陽性率は5%超。これは、都が5月22日に指標を決めた日の陽性率1.7%と比べると3倍増です。9日にはついに224人になり、夜の街だけでなく市中感染が広がっています。

現状、国全体の検査能力は1日3万件とされていますが、経営者からは、冬までに20万件の検査能力の確保を求める声が上がっています。

万全の感染症対策なしに経済の正常化もありえません。

一方、神奈川県は感染拡大に備え、中等症の患者の受け入れ体制（重点医療機関20施設）を整えました。迅速に1時間で24検体のPCR検査ができる100セットを7月中には支給できるようにします。



◆ベビーシッターの強制わいせつ再発防止を！

2人のベビーシッターが児童への強制わいせつ容疑で逮捕されました。内閣府はベビーシッターを利用する保護者に一回2200円の補助を出していますが

この事件はその利用者に起きました。内閣府がシッターの派遣業者を認定する仕事を、「全国保育サービス協会」に任せてきましたが、監督不足です。立憲民主党子ども子育てプロジェクトチーム（座長阿部とも子）会合（写真）で再発防止を政府に求めました。

衆議院議員 あべともこ事務所 〒251-0025 藤沢市鵠沼石上 1-13-13-1 F
TEL 0466-52-2680 FAX 0466-52-2681 E-mail : inochi@shonanfujisawa.com

立憲民主党神奈川県連合 〒231-0012 横浜市中区相生町 4-69-4 F TEL 045-228-8591 FAX 045-228-8592